

## 新潟市中央卸売市場視察報告

水産研究・教育機構日本海区水産研究所資源管理部 上原伸二

### 1. はじめに

水産研究・教育機構日本海区水産研究所資源管理部（日水研資源部）は新潟市を所在地として、青森県から山口県に至る日本海の主要魚種の資源調査・研究を行っています。日常的には、資源とそれを直接利用する漁業が研究対象となっており、漁業者や漁協といった生産者に近い視点で業務を行っています。近年、魚価の低迷など生産現場だけでは解決できない問題に直面する機会が増えており、生産から先の流通過程についても現場を見ておくことが今後の調査・研究に役立つだろうと感じるようになりました。そんな折、平成28年4月に新人研究員を2名も迎えることとなり、新人研修を兼ねて新潟市中央卸売市場を見学するという企画を立てるに至りました。

### 2. 見学

当日は総勢10名が中央卸売市場を訪問し、まずは、市場を管理・運営する新潟市の佐藤久美子さんに概要を伺いました（写真1）。「新潟市中央卸売市場は平成19年5月に新潟市郊外に開場した水産物、青果、花きの3部門を持つ総合市場です。敷地面積は約27万平米と東京大田市場に次ぐ国内第2位（平成28年9月時点）の広さ（写真2）で、生ごみ処理や発泡スチロールのリサイクル施設なども備わっています。水産

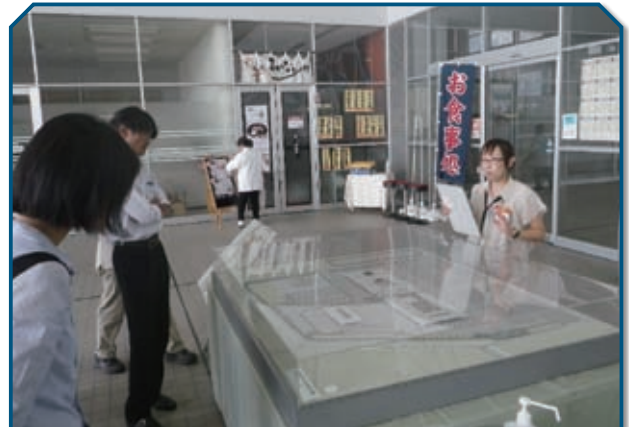
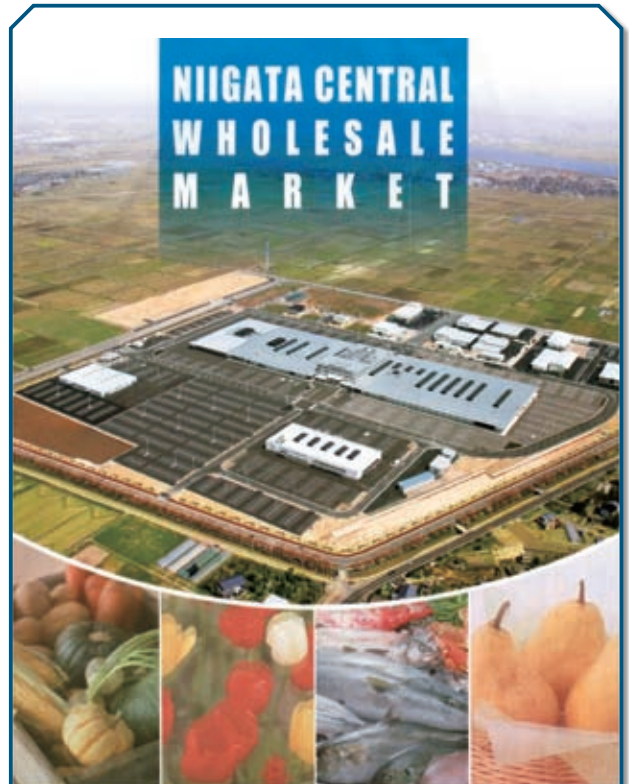


写真1 中央棟1階ロビーで新潟市農林水産課の佐藤さんによる全体説明



新潟市中央卸売市場

写真2 新潟市中央卸売市場のパフレット



写真3 水産棟に並ぶ仲卸業者の売り場

関係の業者数は、卸売業者が2社、仲卸業者が16社、売買参加者は112社です。」とのことで(写真3)、地元新潟の卸売市場が全国有数の規模であることがわかりました。

次に、卸売業者である新潟冷蔵(株)鮮魚1部長の風間宏一さんにお話を伺いました(写真4)。すべてが興味深い話だったのですが、その中でも印象に残るものを紹介します。「全体的な魚の消費低迷に加えて、市場での価格形成機能が低下しており、水産業で誰も儲からない構図となっている。」とのことで、これは今の水産業が抱える大きな問題と認識しました。また、「新潟市内には、中央卸売市場(競り時間午前5時)の他に、産地市場である新潟漁協



写真4 新潟冷蔵(株)の風間さんによる水産物流通の説明

(競り時間午前4時)があり、共通のお客さんを持つことで市場拠点が2箇所存立するような形になってしまっている。」という新潟ならではの事情についても知ることができました。

### 3. おわりに

今回の中央卸売市場見学は日水研資源部として初めての試みでしたが、日常の業務から視野を広げるという意味で大変有意義なものでした。ここで、2名の新人の見学報告を記して「おわりに」に代えたいと思います。

「卸売市場の仕組みをわかりやすく説明していただき、今まで漠然とイメージしていた生産者から消費者への流れが理解できた。また、普段自分が小売店で目にしていく水産物とその値がつくまでの過程での現場の方の思いを聞くことができ、ためになった。」「今回の研修において水産物の流通過程を理解し、流通現場における問題点を認識した。特に、小売業者が卸売業者を通さず直接買い付けるケースが増えており、流通経路の構造が変化しつつある、といった卸売業者の見解が印象に残った。また、日常の業務において漁業者(生産者)との接点はあったが、流通関係者に意見を伺う機会がなかったため、説明内容はいずれも新鮮であった。」

最後になりましたが、市場全般を案内していただいた新潟市農林水産部の佐藤久美子さん、水産物の流通現場について丁寧に教えていただいた新潟冷蔵株式会社鮮魚1部長の風間宏一さんに厚くお礼申し上げます。